

健康という視点

地域資源の活用による所得の確保・向上にむけての取組みがすすめられているが、そうした中で有用植物等への関心が高まっていく。特に健康ブームに対応して、薬草だけでなく、薬木、キノコ、さらにはハチミツ等への視線は熱くなりつつある。

地域密着型の売り場

筆者は家内の実家が長野県伊那市にあることもあって、よく足を運ぶのが伊那市にある産直市場・グリーンファームである。ここでは野菜、果実、花木等、地元農家が生産・採集した農畜産物やその加工品が並べられているだけでなく、家で使われなくなってしまう白や火鉢等の古道具や農具等も売られている。道路を挟んで売り場の反対側では羊、ヤギ、ダチョウ、ウサギ、アヒル等に加えてイノシシ等も飼われ売られている。ヤギはレンタルもされており、何十頭ものヤギがかわいい鳴き声を発

し、子どもたちがうれしそうにヤギ等と触れ合う光景が展開する。

地域密着型の個人的な直売を展開しているグリーンファームならではのもう一つが、昆虫食と薬草等の販売である。信州独自の昆虫食であるザザムシや蜂の子に、イ

花から集められたハチミツが並べられている。色の薄い物から色の濃い物までバラエティーに富む。

ハチミツパワーを実証

グリーンファームの会長である小林史磨（75歳）さんは、朝一番



健康とビジネスを導く

地域資源

農的デザイン研究所代表 髙谷 栄一

ナゴの甘露煮等も並べられている。さらに蜂の子だけでなく、生きたスズメバチ等が入ったハチの巣そのものまでが売られている。またたくさんの薬草に加えて、西洋ミツバチにニホンミツバチのハチミツ、そしてそれぞれに幾種類もの

の仕事がスプーン一杯のハチミツをいただくことだそう。ハチミツはビタミンやミネラルが豊富であるとともに、抗菌力が強く、傷ついた細胞の修復能力に優れている。またハチミツの糖分はブドウ糖や果糖であることから消化器へ

の負担も少ないとされている。

実は小林さんにお供して、この2月末から3月上旬にかけてキューバに出かけてきた。その目的の一つはハリナシミツバチの採蜜現場への訪問であった。キューバ滞在中、あいにくと小林さんは食事が合わなかったらしく、専らハチミツを舐めて、あとは牛乳とバナナをいただくだけ。結果的に一番元気であったのが小林さんで、ハチミツパワーを実感させられた。その小林さんは、カワラダケを煎じたお茶を常飲しており、抗がん効果がきわめて高いという。また糖尿病対策として、ご飯とともに何種類ものキノコを煮たものと一緒に食べているそう。

地域資源がもたらす健康

どうも地域資源の活用が健康の土台ともなるようで、これを楽しみながら自ら実証し、新たなビジネスとすることで地域循環を膨らませている。既に信州大学とこのための研究会をも開始している。